

# 在日中国人留学生のソーシャル・ネットワークとその 関連要因：グローバル・キャンパスの構築に向けて

呉, 暁良

<https://doi.org/10.15017/1931983>

---

出版情報：九州大学, 2017, 博士（学術）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：

## 在日中国人留学生のソーシャル・ネットワークとその関連要因 ーグローバル・キャンパスの構築に向けてー

近年、大学における「内なる国際化」の実現という戦略が打ち出されたことによって、多くの大学が学生間の活発な交流と異文化理解に焦点を当てた「グローバル・キャンパス」の構築を目指している。この目標を実現するためには、大学における学生間の出会い、コミュニケーションを促進させ、学生間のソーシャル・ネットワーク構築をサポートすることが重要である。しかし、大学が混住寮の設置、合同授業など積極的に様々な取り組みを行っているにもかかわらず、多くの報告書では学生間のコミュニケーションは円滑に図れていないと報告されている。

グローバル・キャンパスを実現するために、学生のソーシャル・ネットワークの現状を把握した上で、学生間のソーシャル・ネットワーク構築に影響する要因を明らかにする必要がある。特に留学生が異文化環境で新しいソーシャル・ネットワークを構築するためには、日本人学生以上に多くの困難に直面している。そのため、大学がどのような環境整備とサポートを行うべきかを議論するために、留学生のソーシャル・ネットワークの現状とその影響要因を明らかにし、それらを考慮に入れるべきである。

留学生のソーシャル・ネットワークに関する研究を概観してみると、留学生の出身国の多様化が進んでいるにもかかわらず、多様な留学生の対応に研究が追いついていないこと、留学生を一つのグループとして取り扱っており、留学生と日本人学生のソーシャル・ネットワークのみに注目する傾向が強いこと、留学生の出身国や地域別に研究する必要があることが先行研究で多く指摘されているにもかかわらず、事例研究は限られていること、さらに、学生数、留学生の割合が異なっているにもかかわらず、これらの大学を区別し、大学の特徴別に検討する研究が少ないことが指摘できる。

そこで、本研究は、日本における留学生の割合がもっとも高い中国人留学生を研究対象にし、在日中国人留学生のソーシャル・ネットワーク及びその阻害要因を明らかにし、留学生のソーシャル・ネットワーク構築という観点から日本におけるグローバル・キャンパスを構築するためには何が必要であるかについて議論することを目的とする。

以上の目的を達成するため、本研究では、以下の4つの課題を設定した。1) 在日中国人留学生は同国人、日本人学生、他国の留学生とそれぞれどのようなソーシャル・ネットワークを構築しているのか。2) そのソーシャル・ネットワーク構築の阻害要因は何か。3) 諸関連要因によるソーシャル・ネットワーク及びその阻害要因への影響は何か。4) 大学の学生数や留学生の割合によってソーシャル・ネットワーク及びその阻害要因にどのような違いが見られるか。上記の課題の解明により、キャンパスというコミュニティにおいて、学生間でより深いつながりを形成するためにはどのような要因に注目すべきか、また、グローバル・キャンパスを構築するためにはどのような環境整備とサポートが必要なのかを学生自身と大学関係者の双方に提示できるようになる。

2回の質問紙調査を分析した結果、在日中国人留学生のソーシャル・ネットワークは友人の国籍によって異なることが明らかになった。また、3グループの阻害要因因子が明らか

かになったとともに、中国人留学生と日本人学生のソーシャル・ネットワーク構築の阻害要因は学生側の主観的要因に集中しているのに対して、中国人留学生と他国の留学生の間では主観的要因と客観的要因の両方にあることが明らかになった。関連要因を分析した結果、外国語能力、居住形態、在学身分、在学期間、専攻、部活・サークルの参加状況、中国学友会・留学生会の加入状況がソーシャル・ネットワーク及びその阻害要因に影響を与えることが明らかになった。さらに、大学の学生数は中国人留学生の同国人とのソーシャル・ネットワークに影響を与えるが、日本人学生と他国の留学生とのソーシャル・ネットワークには影響を与えないこと、留学生の割合が高いことで必ずしも留学生と日本人学生との友人付き合いが深まるとは言えないことが明らかになった。

上記の結果を踏まえて、多国籍学生間のソーシャル・ネットワーク構築にあたって、学生側の主観的意識の壁を取り払う手立ての必要性、部活・サークルや学友会・留学生会などの学生の自治組織の役割、大学院生への特別支援について考察を行ったとともに、属性が異なる留学生の多様性に注目しながら大学内部の人的交流の質改善を行う必要性を指摘した。最後に、キャンパスのグローバル化を実現するには、大学におけるカリキュラムの国際化が必要であり、フォーマルなカリキュラムとインフォーマルなカリキュラムの両方を有効に組み合わせ、意図的に学生同士の交流を促進することが必要であるという提言を行った。

本研究は従来の留学生のパーソナル・ネットワーク研究とは異なり、キャンパスという枠内で展開される留学生のソーシャル・ネットワークについて検討した点、従来の留学生と日本人学生の関係にとどまらず、留学生同士の関係にも注目した点、留学生のソーシャル・ネットワーク研究をキャンパスのグローバル化という教育環境づくりへの還元を試みた点において新規性があり、学術的にも社会的にも意義がある。